

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2005.12) 6巻1号:84~86.

文部科学省技術振興調整費による嚢中症・エキノコックス症国際会議を開催して

伊藤 亮

## 学界の動向

# 文科省科学技術振興調整費による 囊虫症・エキノコックス症国際会議を開催して

伊藤 亮\*

### 1. はじめに

平成15年2月末に本学事務局の全面的な協力を得て、平成15年度文科省科学技術振興調整費（以下調整費と略）の応募課題「わが国の国際リーダーシップ確保」プログラムに「アジアにおける難治性寄生虫病（エキノコックス症、囊虫症など）流行把握戦略」プロジェクトを電子申請した。57申請案件から8件が5月のヒアリングによる2次審査を受け、4件（本件を含む2件が医学領域）が採択され、3年間の活動に対して約9千万円の助成を受けた。本プロジェクトを紹介したい。

エキノコックス症、囊虫症いずれもテニア科条虫の虫卵によって引き起こされる難治性の寄生虫疾患である。更に詳しい解説は旭川医科大学研究フォーラム第2巻 その他[2-4]に発表していますのでご参照ください。

### 2. エキノコックス症、囊虫症とは何か？

本学が北海道に設立された医科大学である地域特性を考慮し、地域で流行しているエキノコックス症を最初に、次に囊虫症について簡単に説明する。エキノコックス症として地球規模で公衆衛生学的に重要なものは多包虫症と単包虫症である。①多包虫症はキツネならびにイヌの消化管で肉眼では確認しにくい体長2-3mmの糸くず状の非常に小さな成虫に発育する寄生虫（サナダムシ）の一種、タホウジョウチュウ（多包条虫）から産出される虫卵をヒトが何らかの機会に飲み込んだ時に一部のヒトで肝癌同様の悪性腫瘍として診断される慢性肝疾患で、現在最も致命的な寄生虫疾患である。国内では北海道に特有の地方病であり、道民に

対する検査体制の抜本的改革と強化が必要である。行政が中心になって現在推進している住民検診による正診率は高々1%である<sup>1)</sup>。流行地を抱えている先進諸国で、信頼性の低い血清検査を第一選択肢としているのは日本だけであり、国際的に相手にされない時代である。信頼性の低い検査を実施し続ける意味があるのか？という大きな疑問が残る疾患であり、信頼性の高い検査法の導入は緊急を要する問題である。②単包虫症はイヌの消化管で体長5mmの小さな成虫に発育するタンホウジョウチュウ（単包条虫）が産出した虫卵を飲み込んだヒトで発症する肝疾患で、全世界の牧畜国で蔓延している。国内では輸入症例が少なくない。③囊虫症はユウコウジョウチュウ（有鉤条虫）の虫卵を飲み込んだヒトの脳で有鉤囊虫と呼ばれる1cm前後大きさの幼虫が発育し、悪性腫瘍の疑いで開頭手術を受けることが多く、現在突然死が世界で最も多い寄生虫疾患である。有鉤条虫は、有鉤囊虫が寄生している豚肉を十分加熱調理せずに食べたヒトに感染し、消化管で数メートルの長さの成虫に発育する。有鉤条虫に感染しているヒトから排泄される虫卵をブタが摂取した場合に、ブタの全身で幼虫（有鉤囊虫）に発育する。このヒトから排泄される虫卵が本人を含む不特定多数のヒトに対しても感染性を有し、全身、特に脳で囊虫に発育する。これが脳囊虫症である。WHOは脳囊虫症対策に世界が取り組むべきであると2003年総会で提案し、日本代表（Dr. Fukuda）が全面的な協力を表明している。

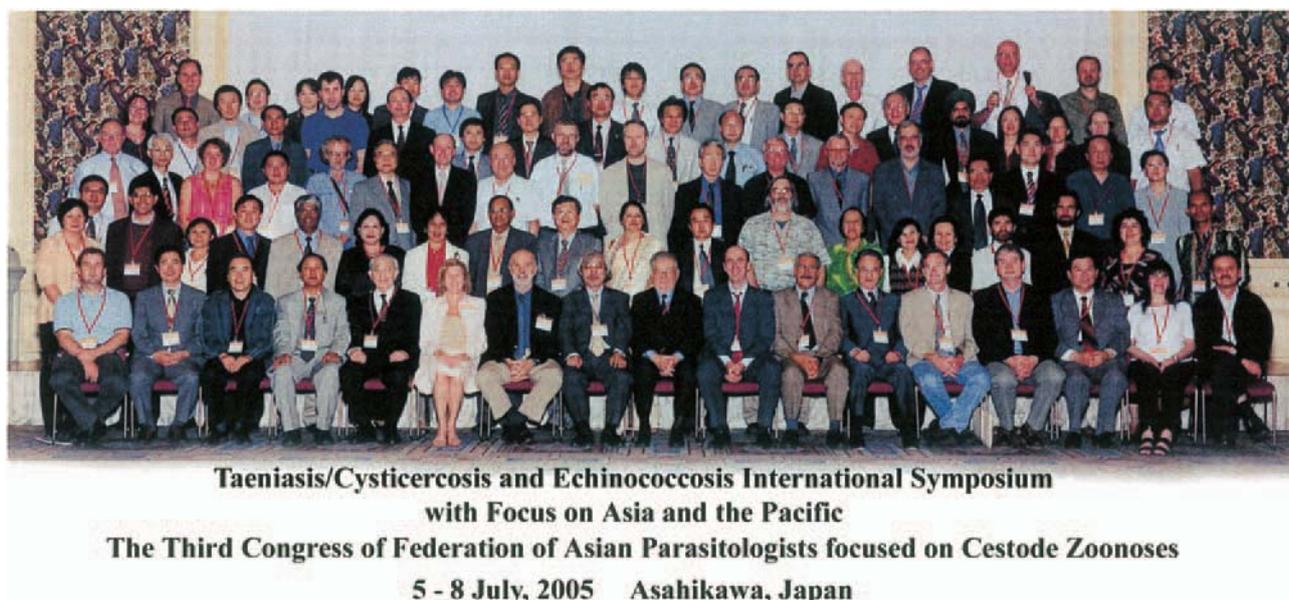
### 3. 本プロジェクトの概要

本プロジェクトは次の3つの活動によって構成される。1) アジアを中心に、エキノコックス症、囊虫症

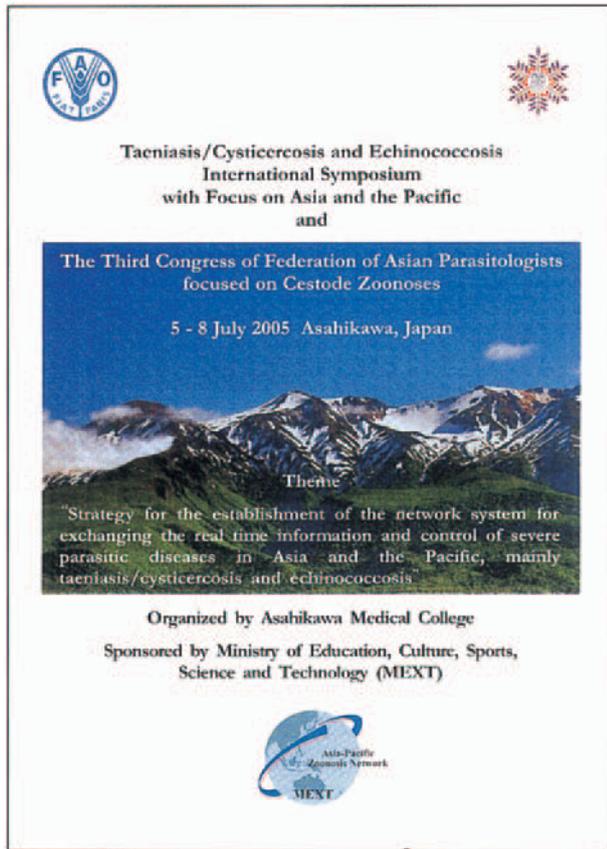
\*旭川医科大学 寄生虫学講座

が流行している国々から専門家を招聘し、現在国際的に最高水準と評価されている旭川医大で開発された検査診断技術を移転することを目的とするセミナーの開催、2) これらの疾患に関する国際会議開催、3) 旭川医科大学で開発された検査・診断法の更なる改良である。1) についてはすでに3回セミナーを開催し、講師を含め、アメリカ、イギリス、オーストラリア、中国、モンゴル、ベトナム、ネパール、タイ、ラオス、インドネシア、フィリピン、カメルーンから延べ30人を招聘している。本年度内に4回目のセミナーを開催し、フランス、ロシア、中国、インドネシア、タイ、フィリピンから研究者を招聘する計画である。2) については本プロジェクトに先立ち、筆者はバンコックで2000年に開催された第3回食品媒介人畜共通寄生虫病国際セミナー（45カ国、800人参加）の主要シンポジウムとして囊虫症シンポジウムを主催し、SARS（severe acute respiratory syndrome）の発見者として地球規模での大流行阻止に体当たりで取り組んだWHOの故 Carlo Urbani 博士と3時間半のシンポジウムの座長の役を引き受けた。本プロジェクトではバンコックで2003年12月に開催された第4回食品媒介人畜共通寄生虫病国際セミナー（参加国40カ国、参加者700人）の主要シンポジウムとしてエキノコックス症シンポジウムを旭川医大主催の形で開催した。イギリス（2人）、オーストラリア（3人）、ドイツ、中国、日本（各1人）を招聘した。本プロジェクト最大のプログラムが

旭川で2005年7月に開催した囊虫症、エキノコックス症国際会議である。7月5日から8日まで4日間ぶっ続けで早朝から夜まで続けられた国際会議であり、29カ国プラスWHO、FAOの専門家、計76人（外国人58人、日本人18人）ならびに国内外の若手研究者等の自主参加者約20人を加え、約100人の参加をえた（写真1）。うち外国人50人、日本人18人については旅費、滞在費全額が調整費でまかなわれた。この会議にはWHO、FAO、CDC（米国）をはじめとする国際推進委員、山形大学学長、群馬大学学長をはじめとする国内推進委員ならびに本学推進委員（八竹学長、石川病院長）が参加した。会議抄録集の表紙を写真2として示す。9-10月にFAO、WHO本部を訪問し、旭川会議の総括、今後の協力体制構築について意見交換をした。WHOからは旭川会議の総括原稿をBulletin WHOに書くよう要請されている。現在、旭川会議報告集を国際専門誌の特集号として出版すべく53篇の総説原稿をロンドンのElsevier社に持ち込み、最終の印刷打ち合わせをして帰国したところである。来年3月に出版を予定している。また、これまでの国際活動に対し、FAO本部で「アジアにおけるFAO国際協力研究機関」として旭川医科大学を指定する活動が動き出している。「医食同源」の立場から、この活動が一日も早く実を結び、本学の更なる国際貢献に少しでも役立つことができることを夢見つつ、活動紹介を終えたい。



数人の参加者が写っていないが95人（29カ国）が記録されている。



旭川会議抄録集の表紙。旭川医科大学主催と明記してある。

#### 4. 謝 辞

旭川会議の開会挨拶をしていただいた八竹直学長、レセプションで歓迎の挨拶をしていただいた石川陸男病院長に御礼申し上げます。また調整費による活動を全面的に支えてくださった事務局の皆様、会議運営に参加していただいた新任の英語教師 Sharon Hanley 女士に感謝いたします。

#### 文 献

- 1) 佐藤直樹他. エキノコックス症—多包性エキノコックス (alveolar echinococcosis) を中心に一. 日本臨床 2003; 61(増刊): 636-643.
- 2) 伊藤亮. エキノコックス症を取り巻く諸問題. 旭川医科大学研究フォーラム2001; 2 (1): 13-19.
- 3) 伊藤亮. 旭川医科大学におけるエキノコックス症研究の現状と日本におけるエキノコックス症の問題点. 北海道医学雑誌 2001; 76(1): 3-8.
- 4) 伊藤亮他. 寄生虫学講座におけるエキノコックス症, 有鉤囊虫症, ライム病についての研究総括. 旭川医科大学研究フォーラム2001; 2 (2): 14-21.